

—— 生活意識について ——

松阪女短大 ○川本栄子 渡辺澄子 上島雅子 梅村郁子 馬場啓子

目的 第3報に引きつづき、本報では高齢者の生活意識について、その実態と構造を明らかにしたい。調査および方法は前報と同様である。

結果 ①生活満足度については、高齢者の8割強が「満足」と答えている。この生活満足度は経済、家事時間、自由時間、職業への各満足度と非常に強い関連をもつ。すなわち、これらの満足度が総合されて全体的な生活満足度を形成しているように思われる。性別、年齢、学歴との関連はみられなかった。各領域の項目との関連から、健康や家族関係が良好なほど生活満足度が高い傾向を認めることができた。

②ふだんの心がけについては「他人を尊重する」者が約5割、ついで「自分の主義、主張を大切にする」「物賤を大切にする」という者がそれぞれ2割強であった。

③社会に貢献している者（そのうち8割は家族にも貢献している）、家族にのみ貢献している者、どちらにも貢献していない者が各々各ずつであった。性別では男性が社会に、女性が家族に貢献している傾向がみられた。また、配偶者のない者の半数はどちらにも貢献していないと答えている。社会や家族に貢献していると意識する者は、どちらにも貢献していないと意識する者にくらべて、社会への関心が高く、日常生活や地域社会生活における積極的活動の実施率も高くみられた。